　この度の「がんの真実と終焉」書籍出版おめでとうございます。

今日、我国のがんは生涯2人に1人が発症し、3人に１人が亡くなるという多死社会における最も深刻な問題となっております。

先生には長期にわたり、がん専門の治療と研究に人生の全てをかけられ１人でも多くのがん患者を救うことに心掛け、その行き着いた思いがこの本に結実されております。

　私の（社）日本医療研究所は「人が病気にならない、病気にさせない、なったらすぐ

名医に紹介する」ことを理念としておりますが、小林常雄先生はその先生方の中でも最も尊敬し、信頼するドクターであります。

　がんは生活習慣病と言われておりますが、私達は日々の生活に追われ、がん予防対策を先送りにしてなるべく思わないようにして自己責任を回避しているのが現状です。わかっちゃいるけどやめられない、即ち性格習慣病と言えましょう。しかし、誰でもなってしまってからあわてて我が身を取り乱し、健康保険制度の標準治療に頼り、結果的に助かる確率は決して高くありません。

先生のTMCAは転ばぬ先の杖として定期的に検査を受けその結果、悪い生活習慣病を改め安心して日々生き生きとした生活を営み、ひいてはそのことが、日本の無益なそして、時には悪い結果を及ぼしかねない医療の改革と正しい国民健康保険の継続・発展へとつながるものと確信する次第です。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　一般社団法人日本医療研究所

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表理事　野口　哲英